

第V章 モニターツアー（案）の作成

1. モニターツアー 『夏季 編』

ワイルドなアクティブ日和が心地いい。

根室地域における周遊観光に向けた調査で明らかになった、期待度、満足度の高い「自然」と「アクティビティ」を、開放感いっぱいの夏に、五感で楽しめる構成とした。

旅の思い出をひととき鮮やかに演出してくれる雄大な自然美の数々、奥深い歴史文化と旬の味覚、“躍動”と“静寂”の緩急織り交ぜたアクティビティをラインアップし、ミレニアル世代を中心に訴求する。

歴史の痕跡に触れ、旬の味覚に癒され広大な自然の中で多彩なアクティビティを満喫する—— 根室地域にある“映える”体験の数々で「また訪れたい」「冬季には何が体験できるのだろう」と来訪意欲を促進する。

●構成コンテンツ一覧

ホタテの殻向き体験と海鮮丼ランチ（濱田商店）／クジラ・イルカ バードウォッチング（知床ネイチャークルーズ）／知床羅臼野遊びフィールド／熊越の滝トレッキング／標津町「郷土料理 武田」／原始河川ポー川カヌー／風連湖／ホテル ねむろ海陽亭／納沙布岬／みちのえきスワン44ねむろ／厚床伊藤牧場／ジャンボホタテバーガー（ジャンボ双葉）／開陽台／ラ・レトリなかしべつ（山本牧場ミルクレーム）／養老牛温泉 湯宿だいいち／ムツゴロウ動物王国日だまり乗馬クラブ

●日程別の経路



1日目	ホタテの殻向き体験と海鮮丼ランチ（濱田商店）／クジラ・イルカ バードウォッチング（知床ネイチャークルーズ）／知床羅臼野遊びフィールド
2日目	熊越の滝トレッキング／標津町「郷土料理 武田」／原始河川ポー川カヌー／風連湖／ホテル ねむろ海陽亭
3日目	納沙布岬／みちのえきスワン44ねむろ／厚床伊藤牧場／ジャンボホタテバーガー（ジャンボ双葉）／開陽台／ラ・レトリなかしべつや山本牧場ミルククリーム等／養老牛温泉 湯宿だいいち
4日目	ムツゴロウ動物王国日だまり乗馬クラブ～帰路へ

●行程表

	Time	内 容
DAY1	8:40	女満別空港着後、羅臼町へ移動
	11:30	ホタテの殻向き体験と海鮮丼ランチ（濱田商店）
	13:00	クジラ・イルカ バードウォッチング（知床ネイチャークルーズ）
	16:00	知床羅臼野遊びフィールド
	宿泊	知床羅臼野遊びフィールド
DAY2	9:00	熊越の滝トレッキング
	11:30	昼食（標津町「郷土料理 武田」）
	12:30	原始河川ポー川カヌー
	16:00	風連湖
	宿泊	ホテル ねむろ 海陽亭
DAY3	9:00	旅館発
	9:30	納沙布岬
		みちのえきスワン44ねむろ、厚床伊藤牧場等に立ち寄り、別海町へ
	12:30	ジャンボホタテバーガー（ジャンボ双葉）
	14:30	開陽台
	15:30	ラ・レトリなかしべつ/山本牧場ミルククリーム等でソフトクリーム
	宿泊	養老牛温泉 湯宿だいいち
DAY4	10:00	旅館発
	10:30	ムツゴロウ動物王国日だまり乗馬クラブにて乗馬体験
	13:00	終了後、空港へ

2. モニターツアー 『冬季 編』

壮大なスケールと極寒に、至福のひととき。
類い希な自然が創り出す、最東端の求心力。

今後体験してみたいテーマから抽出されたキーワードである、「食材」「歴史」「アクティブ」「癒し」「健康」を組み合わせ、根室地域の奥行きのあるプログラムを構成した。

流氷の恵みが育む野生動物との出会い、唯一無二の極寒体験、圧倒的な開放感と上質感の心地よさ、疲れを癒す温泉に豊富な食資源、そして国内最東端という特別感……。

根室地域の個性あふれる冬のコンテンツの数々は、スケール感があり豊かな表情を持ち、旅行者に最大級の満足度を提供する。

●構成コンテンツ一覧

ホタテの殻向き体験と海鮮丼ランチ（濱田商店）／流氷&バードウォッチング（知床ネイチャークルーズ）
／道の駅知床・らうす／知床羅臼温泉 ホテル峰の湯／熊越の滝スノーシュートレッキング／標津町「郷土料理 武田」／納沙布岬／ホテル ねむろ海陽亭／風連湖／氷下待網漁体験&スノーモービルそり体験／
みちのえきスワン44ねむろ／ジャンボホタテバーガー（ジャンボ双葉）／氷平線ミニウォーク／開陽台／
養老牛温泉 湯宿だいいち

●日程別の経路



1日目	ホタテの殻向き体験と海鮮丼ランチ（濱田商店）／流水&バードウォッチング（知床ネイチャークルーズ）／道の駅知床・らうす／知床羅臼温泉 ホテル峰の湯
2日目	熊越の滝スノーシュートレッキング／標津町「郷土料理 武田」／納沙布岬湖／ホテル ねむろ海陽亭
3日目	風連湖（氷下待網漁体験&スノーモービルそり体験）／みちのえきスワン44ねむろ／ジャンボホタテバーガー（ジャンボ双葉）／水平線ミニウォーク／開陽台／養老牛温泉 湯宿だいいち
4日目	帰路へ

●行程表

	Time	内 容
DAY1	8:40	女満別空港着後、羅臼町へ移動
	11:30	ホタテの殻向き体験と海鮮丼ランチ（濱田商店）
	13:00	流氷&バードウォッチング（知床ネイチャークルーズ）
	16:00	道の駅知床・らうす
	宿泊	知床羅臼温泉 ホテル峰の湯
DAY2	9:00	熊越の滝スノーシュートレッキング
	12:30	昼食（標津町「郷土料理 武田」）
	15:30	納沙布岬
	宿泊	ホテル ねむろ 海陽亭
DAY3	8:00	旅館発、風連湖へ
	9:00	氷下待網漁体験&スノーモービルそり体験
		終了後、みちのえきスワン44ねむろへ
	12:00	ジャンボホタテバーガー（ジャンボ双葉）
	14:00	氷平線ミニウォーク
	16:00	開陽台
	宿泊	養老牛温泉 湯宿だいいち
DAY4	10:00	ゆっくりと疲れを癒し、出発 空港へ

第VI章 協議会等の開催

1. 地域協議会

令和3年度 第1回 北方領土隣接地域（根室地域）観光促進協議会	
日 時	令和3年8月4日（水）13：30～15：00
会 場	※コロナ対策のため、オンライン開催
内 容	1. 開会 2. 議事 (1) 協議会の設置 (2) 根室地域の観光の現状 (3) 北方領土隣接地域への新たな日常における旅行誘客調査 (4) その他 3. 閉会

●出席者（敬称略・順不同）

所 属
根室市
別海町
中標津町
標津町
羅臼町
北海道 根室振興局
知床ねむろ観光連盟
根室市観光協会
別海町観光協会
一般社団法人なかしべつ観光協会
南知床標津町観光協会
一般社団法人知床羅臼町観光協会
知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ
全日本空輸株式会社 ひがし北海道支店
日本航空株式会社 釧路支店

所 属
北海道旅客鉄道株式会社
釧路地区レンタカー協会
阿寒バス株式会社
根室交通株式会社
北海道運輸局 釧路運輸支局
北海道開発局 釧路開発建設部
<アドバイザー>
札幌国際大学 教授
<事務局>
北海道開発局
<受託者>
株式会社JTB 北海道事業部

有識者からの意見

アドバイザーである古田教授から、コロナ禍の今後の観光について助言いただいた。

- コロナによる北海道観光の変化

約522万人の人口で、45,000人の感染のため、感染率は0.8%。そして一昨年の雪まつりからコロナが広まり、もう500日以上が経過している。世界では、77億人の人口のうち、2億人近くが感染し、感染率でいうと北海道の約3倍。日本全国でも12,000人が感染し、今年の後半から来年には海外からインバウンド客が戻ってくるというような考えがあったが、全くそういう状況ではない。

- コロナによる世界の状況

昨日の世界の感染状況を見ても、アメリカのようなワクチン接種が済んでいるような国でも12万人、日本の人口の10倍以上の方が感染している実態。インドネシアでは感染拡大のため、日系の会社に勤めている方が、ワクチンを打つために帰国しなければならないような状況にある。一方、中国や韓国は圧倒的に日本より感染者が少ない。

- コロナ禍での旅のあり方

これからの観光客の受け入れに関して、感染症対策で安心、安全がメインとなる。北海道の状況と照らし合わせると、自然散策や野外アクティビティが豊富な北海道は、3密を回避するには適当な地域。アフターコロナでは感染症対策を行い、安心・安全であり、人口密度が少ない北海道は選ばれる観光地であり、ポテンシャルが高いと考える。北海道の人口密度は東京の100分の1で低く、道東はさらに低いので、ソーシャルディスタンスが保て、さらにアドバンテージが高い。海外の受け入れは、向こう一年は厳しい状況が続くだろう。日本には、毎年3,000万人を超える旅行客が海外から来ており、その一方で、2,000万人以上が海外旅行に出かけていた。この2,000万人は時間やお金に余裕のある方が多いため、一つのターゲットと言える。

- ふるさと納税について

根室市が北海道全体の人気ナンバーワン地域で、全国では3位となっており、日本中から注目されている。自然はもちろんだが、食べ物の魅力もあるエリア。自治体と納税者のつながりを生かし、食べるだけではなく体験もできれば有効ではと考える。

● 宿泊施設について

根室エリアに宿泊施設があまりないが、地域のすぐ近くまで旅行客は来ている。（知床、阿寒、川湯等）この方たちに対して働きかけ、宿泊に繋げていくべき。根室エリアだけではなく、広域での情報交換や連携発信も今後有効ではないか。

○根室地域は宿泊施設が多くないが、知床のような大規模なエリアは宿泊施設がある。今後の展開をどう考えるか？

—— 富裕層に好まれるような施設があまりなく、急にそういった施設を作るのも難しい。通常の旅館やホテルにはできないような、自然体験やアドベンチャーツーリズムなど、そこでしかできないような体験ができる施設で競い合うのが現実的ではないか。

令和3年度 第2回 北方領土隣接地域（根室地域）観光促進協議会	
日 時	令和4年3月23日（水）14：00～15：30
会 場	※コロナ対策のため、オンライン開催
内 容	1. 開会 2. 議事 (1) 令和3年度根室地域への旅行者誘客調査の結果について (2) 令和4年度根室地域への旅行者誘客調査の取組について (3) 協議会構成員からの情報提供 (4) その他 3. 閉会

●出席者 （敬称略・順不同）

所 属
根室市
別海町
中標津町
標津町
北海道 根室振興局
知床ねむろ観光連盟
根室市観光協会
別海町観光協会
一般社団法人なかしべつ観光協会
南知床標津町観光協会
知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ
全日本空輸株式会社 ひがし北海道支店
日本航空株式会社 釧路支店
北海道旅客鉄道株式会社

所 属
釧路地区レンタカー協会
阿寒バス株式会社
根室交通株式会社
北海道運輸局 釧路運輸支局
北海道開発局 釧路開発建設部
<アドバイザー>
札幌国際大学 教授
<事務局>
北海道開発局
<受託者>
株式会社JTB 北海道事業部

アドバイザーによる総括（札幌国際大学 古田和吉教授）



<今後注目していく点について>

（after/withコロナの旅行者のニーズ）

持続可能な観光であることが今までになく言われてきている。旅行先は、これまでの大都会中心から自然や解放感のある地方へシフトして人気が高まっている。訪問先の満足度が鍵で、体験や交流型に強みがあること、感染対策にレベルが確保されていることが挙げられる。

（訪日客の認知度、北海道は46%）

インバウンドの旅行嗜好についての調査結果では、北海道の認知度は46%で全国5位。希望旅行先に北海道を挙げた人は31%で全国3位だった。この2年、インバウンドは来ていないが、予想では来年の今頃にはインバウンドは戻り始めていると思う。

（2022年の国内旅行 倍増と予想）

JTBでは、2022年の国内旅行は昨年の倍増と予想している。コロナ前の2019年のほぼ9割ぐらいは戻るだろうと言われている。大いに期待できる国内の状況だと思う。

（サステイナブルツーリズム）

注目のポイントとしては、地域の環境を守る、地域の社会を守る、地域の経済を守ること。コロナを経て、これからの観光の基本として明確になった。根室地域にも一致する部分が多くありアドバンテージになると思う。

（新しいタイプのホテル“バイオホテル”出現）

厳しい基準をクリアした環境にやさしい、サステイナブルなホテル。国内では数少ないが、このような自然環境にやさしいホテルが世界のニーズになりつつある。バイオホテルの基準は、生態系に配慮したフード基準、コスメティック基準、二酸化炭素排出量削減を定めた環境基準からなる。自然、環境の点で根室地域を考えると今後可能性の高さを感じる。

（アドベンチャーツーリズム）

いま世界が北海道に注目している分野。「自然」「アクティビティ」「異文化体験」の要素は、根室地域にはアドバンテージがあり今後期待が高まる。

(根室地域の強みの活用)

北海道の人口密度は日本で最低。東京の100分の1。根室地域はさらに低いと思うが、3密回避、ソーシャルディスタンスが叫ばれる昨今、この状況は強みに変えることができる。

(ふるさと納税をアピール)

根室市は150億円、別海町は16倍になった。これらにアクセスしている人たちのチャンネルを使って積極的に宣伝することが大切。受け手は決して迷惑な話だとは受け取らない。

(最近の話題からヒントを得る)

冬の目玉にサウナが浮上している。氷点下の大自然とサウナ、新たな資源としての可能性を感じるが、地域の話から観光への接点を見いだすことが有効だ。

(集客には人材も大切)

もう一度行きたいと思う気持ちには、おもてなしの確かさや、エンターテインメント性のあるヒトとのふれあいも重要なポイントになる。

(夜の資源には可能性がいっぱい)

ナイトタイムエコノミー。今ある観光資源を見直してみる。昼間集客できている資源をどのように夜に活用できるかを考える。夏を冬に、昼を夜にという発想が集客の鍵になる。

(地域のイチバンを推す)

例えば広大な牧場での酪農体験。対外的に浸透している地域のイメージを的確に発信することも大切だ。

(リピーターの拡大)

生産性を高めるためには、利益を出してリピートしなければならないという観点で取組む。一気に人を集めるよりも、長続きすること。100人が1回しか来ないよりは1人が10年間来るほうが将来的にはプラスになる。

(令和4年度に向けてのアドバイス)

スケジュールに沿って、各自の役割分担を、主体的に遂行。実行すること。必ず成果に繋がる。

2. 地域会議

10月に実施する専門家招請の概要について、各地域（1市4町）と個別に打合せ会議を行った。コロナ対策のためすべてオンラインで実施した。

対象自治体	実施日時
根室市	令和3年9月14日（火）13：30～14：00
中標津町	令和3年9月14日（火）16：00～16：40
別海町	令和3年9月15日（水） 9：30～10：10
標津町	令和3年9月15日（水）11：00～12：00
羅臼町	令和3年9月15日（水）15：00～15：40

冒頭、招請の概要について開発局から説明を行い、その後意見交換を行った。招請の概要案は以下の通り。

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の新たな日常に対応していく ・モビリティミックスによる移動円滑化をはかる ・自然や一次産業の体験メニューの造成による周遊観光の促進、エリアツーリズムの形成を目指す
招請実施予定	10月5日（火）～8日（金）※8日は意見交換会を実施予定
専門家候補	<p>株式会社 <u>バリーズ</u></p> <p>メンバー全員がミレニアル世代で旅行コミュニティメディア“TabiMUSE”やInstagramアカウントを運営 旅行者目線での知見やノウハウを生かしながら、宿泊施設やDMOを含めてコンサルをしている</p>
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の標津町動向調査によると、地域の旅行者の70%が40代以上と比較的年齢層が高いため、新しいターゲット層を開拓することで誘客の促進に繋がるのでは。 ・コロナ禍で、バリーズコミュニティ内で「大自然」、「癒し」を求める傾向があるため、根室地域の大自然がバリーズのターゲットにマッチするのではないか。 ・若年女性への発信力があるため、来年度以降の情報発信においても、新しい切り口で旅の組み立てや、景観の魅せ方等アドバイスをいただけるのではないか。

第Ⅶ章 スケジュール

1. スケジュール

	周遊観光に向けた基礎調査	専門家等の招請による商品 造成に向けた調査・検討	協議会の運営補助等
7月	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> ●各種情報整理 ●方向性の検討 ●スケジュール調整 等 </div>		
8月		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ①被招請者の選定 ②視察日程調整 ③視察内容の確認 </div>	8/4 北方領土隣接地域（根室地域） 観光促進協議会＜第1回＞ ●業務内容の共有
9月			9/14 9/15 地域会議（個別） 根室市／別海町／中標津町／ 標津町／羅臼町 ●招請内容の質疑応答
10月	日本人旅行者の 動向把握調査 観光コンテンツ及び 交通手段の調査	10/5 10/8 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> ＜専門家等の招請＞ ●コンテンツの評価 ●意見交換会の実施 </div>	
11月			
12月			
1月			
2月		効果的な情報発信手法の構築 旅行者の受入環境の整備	
3月		モニターツアー案の作成 業務報告	3/23 北方領土隣接地域（根室地域） 観光促進協議会＜第2回＞ ●総括